

魅力度向上対策特別委員会記録

<p>1 会議の日時</p>	<p>開 会 午前 10 時 02 分 令和 3 年 10 月 6 日 閉 会 午前 11 時 19 分</p>	
<p>2 会議の場所</p>	<p>企画経済委員会室</p>	
<p>3 出席者</p>	<p>委員</p>	<p>委員長 玉田和浩 副委員長 野村美穂 委員 村下貴夫 伊藤秀光 布俣正也 澄川寿之 平野恭子 平野祐也 小川祐輝 森 益基</p>
	<p>執行部</p>	<p>別紙配席図のとおり</p>
<p>4 事務局職員</p>	<p>主査 柘植健太 主事 松本健汰</p>	

5 会議に付した案件	
件名	審査の結果
1 魅力度向上対策特別委員会中間報告に対する対応状況	
2 その他	

6 議事録（要点筆記）

○玉田和浩委員長

ただいまから、魅力度向上対策特別委員会を開会する。

本日の委員会は、本年3月に知事へ提言した魅力度向上対策特別委員会中間報告に対する対応状況について、執行部の説明を聴取するため、開催したものである。

今回のフォローアップを通して、必要な施策を令和4年度当初予算へ反映させるなど、より一層の県内の魅力度の向上を図られるようお願いしたい。

委員の皆様におかれましては、執行部の対応状況に関して、積極的にご意見をいただくようお願いする。

なお、本日の執行部の説明員は、本年3月の中間報告の提言内容を担当する部局を中心に、出席いただいている。

○玉田和浩委員長

それでは、魅力度向上対策特別委員会中間報告に対する対応状況について説明をお願いします。

質疑は説明終了後をお願いします。

（執行部 挨拶・紹介・説明）

○玉田和浩委員長

説明に対する質疑はあるか。

○森益基委員

「世界の持続可能な観光地100選」に長良川流域が選定されたことについて、当県以外に選定された地域はどこか。

○渡部観光企画課長

京都市、釜石市、ニセコ町が昨年に引き続いて選定され、新たに塩原市、阿蘇市等が加わり、合わせて12地域が選定されている。

○森益基委員

長良川流域と類似の地域はあるか。

○渡部観光企画課長

市町村ではなくエリアとして選定された地域としては、与論島などがある。

○平野祐也委員

岐阜県産アユの出荷量は全国で2位。養殖物と天然物がある中、養殖アユもスーパーに出回っており競争力もあると思うが、養殖アユのブランド化はアユ戦略の中でどのようになっているか。

○高木農産物流通課長

養殖アユについては、全国に出荷される中、大阪で多く扱われている実績がある。今後、大阪・関西万博に向けた取組みの中で販路拡大を図っていきたい。

○平野祐也委員

木曾川中流域観光振興協議会の今後の進め方は。

○渡部観光企画課長

今年7月に犬山市を含めた中流域の5市町と県による協議会を立ち上げた。オブザーバーとして国交省木曾川上流河川事務所や民間事業者にも参画いただいている。

現在は、エリアのコンセプトを形成すべく実務者会議による議論を進めている。並行して、ウォーキングや遊覧船のイベントを複数回開催し、地域の意識醸成を図っていく。来年度以降は、コンセプトの発信に加え、新たな資源の発掘や満足度調査を実施し、2025年の大阪・関西万博を見据え国内外からの誘客を図っていきたい。

○布俣正也委員

この夏にギフトプレミアムにて農産物を販売した生産農家から採算が合わなかったと聞いた。情報発信拠点としての位置づけではあると思うが、効果や売上はどれぐらいか。

○高木農産物流通課長

加工した商品を自らが対面で販売し、消費者から評価を聞いて改良を行うことをギフトプレミアムの第一の目的としている。情報発信の効果としての数字は把握していない。昨年の販売実績は青果物中心に約7,000万円である。

○布俣正也委員

情報発信の効果について、数字を把握し、今後活かしてほしい。

○布俣正也委員

新たな岐阜柿ブランドである県育成品種「天下富舞」について、昨年度の生産状況、後継者育成や今後の生産方針は。

○大橋農産園芸課長

「天下富舞」の品種名は、「ねおスイート」である。「ねおスイート」ブランド化推進協議会において推進しており、苗木を約1,500本配布し、生産面積では約5haになっている。栽培を開始して間もないことから、本格的な出荷はこれからである。

「ねおスイート」については、全農岐阜が「天下富舞」と商標登録し、一番高いものは糖度25度以上の「天下人」として2個80万円で販売されたことが、新聞紙上でも取り上げられている。その下のランクでも糖度20度以上を基準としており、栽培する生産者も限定してブランド力を維持するよう努めている。

○布俣正也委員

「ねおスイート」と「天下富舞」の違いは。

○高木農産物流通課長

「ねおスイート」は県が開発した品種の登録名称であり、その中でも全農岐阜が定める大きさ、甘さの基準を満たしたものを「天下富舞」として販売している。

○澄川寿之委員

県産材の輸出関係で、これまでの台湾での常設展示場の取組み状況はどうであったか。また、新たに中国企業との商談会が計画されているが、コロナ禍で厳しいなか今後の見通しをどのように考えているか。

○伊藤県産材流通課長

台湾の展示場は、今年4年目で、年間2,000人程度の来場があり、県内7社が現地企業と商談を進めてきた。過去3年間で3社が現地企業と代理店契約を結んでおり、今年度さらに1社が契約を結ぶ予定である。以上のように台湾で一定の道筋ができたことから、中国での展開を始めることとした。

県産材輸出は、平成27年は698㎡であったものが、令和2年には約2,000㎡まで拡大し、売り上げも1億8,000千万円まで伸びている。

○伊藤秀光委員

中国への県産材輸出はどのような製品で行うか。

○伊藤県産材流通課長

中国では、マンションの内装需要が多いので、内装材製品を輸出している。上海ディズニーリゾートの和風旅館でも実績がある。

○村下貴夫委員

県単独で県産材輸出に取り組んでいるのか。中国は需要が多いので、本県がリーダーシップを取り、国産材という括りで他県と連携していくべきではないか。

○伊藤県産材流通課長

本県単独で進めているが、JETROと連携して取り組んでいる。県単独では不十分な部分もあるので、他県との連携も検討していきたい。

○村下貴夫委員

「世界の持続可能な観光地100選」の目的は文化財等の保護と観光のどちらか。

○渡部観光企画課長

100選は、サステイナブル・ツーリズムの認証制度であるため、最終的には観光活用が目的となる。

今回の認証は、地域、業界、観光客等のニーズに対応しながら、現在及び将来の経済、社会、環境の影響を考慮した観光地としての選定である。

○村下貴夫委員

世界遺産や日本遺産との違いは。

○渡部観光企画課長

認証団体が異なる。100選は、サステイナブル・ツーリズムに特化した指標による認証であり、世界遺産や日本遺産は、文化財保全の観点の制度で、それを観光誘客にも活用している。

○河田文化伝承課長

日本遺産や世界遺産は、地域の貴重な文化財をしっかりと守り、後世に伝えていくものである。多言語で国内外への発信を行うなどにより、観光誘客の観点から連携していくが、文化財をしっかりと守る点に軸足を置いている。

○村下貴夫委員

他の地域での申請や他の認証機関への挑戦の予定はあるか。

○渡部観光企画課長

今回は観光庁のモデル地区に長良川流域が選定され、その事業の一環として応募したものである。この他に申請するかどうかは、地域の希望を聞きながら検討する。

○野村美穂副委員長

世界遺産、日本遺産をはじめ、県でもいろいろな登録がされている。長良川流域が「世界の持続可能な観光地100選」に選定されたことを、どのようにプレミアム感をつけて発信するのか。

○渡部観光企画課長

認証制度が今回で7回目と歴史が浅く、サステイナブル・ツーリズム自体が新しい視点であることから、今後、新たな「岐阜の宝もの」の認定にこの視点を取り入れるなど岐阜県らしいサステイナブル・ツーリズムの確立を進めるとともに、国際的に認められた価値を強く発信していきたい。

○金武観光資源活用課長

平成27年に「清流長良川の鮎」がGIAHS世界農業遺産に認定されて以降、長良川流域の魅力の掘り起こし及び発信に取り組んできた。今年度は、長良川で受け継がれてきた文化や自然の魅力を発信するため、10月16日と17日にぎふワールド・ローズガーデンにて、10月23日と24日に養老公園にて、11月に河川環境楽園にて実施する観光キャラバンにおいて伝統工芸品等の展示販売を実施する。

○辻里川振興課長

世界農業遺産については、観光PRに加えて、「清流長良川の鮎」の持続可能な取組みとして、人工ふ化放流などの技術を継承する人材の育成にも力を入れている。

○加藤観光誘客推進課観光誘客企画監

サステイナブル・ツーリズムは世界的に注目されているSDGsの広がりから国際機関や世界的な旅行会社でも重要視されているところ。

岐阜県の自然、伝統・文化、匠の技といった魅力はサステイナブル・ツーリズムの理念に沿うものであり、サステイナブル・ツーリズムの先進的な地域として、修学旅行の誘致や国内外からの誘客につな

げていきたい。

○玉田和浩委員長

「世界の持続可能な観光地100選」など、世界持続可能観光協議会（G S T C）による認証は非常に価値があると思う。更に上の段階を目指すか。

○渡部観光企画課長

認証の上の段階になる程、環境や社会分野の条件が比重を占めるようになるため、一概に上を目指すことが誘客に繋がる訳ではない。まずは、100選に選ばれた価値をP Rしていく。

○村下貴夫委員

更に上の段階を目指すための項目はどういったものか。

○渡部観光企画課長

水質管理やエネルギー等の項目があり、個別にどう評価されるかが問題となる。地域が広域に渡るほど達成が困難となる。

○玉田和浩委員長

国内の他の地域において、更に上の段階の選定はされているか。

○渡部観光企画課長

2018年に釜石市が100選の一つ上の段階であるブロンズ賞となったが、毎年評価を受け直すものであり、今年是国内の選定地域すべてが100選である。

○小川祐輝委員

コロナ終息後に行きたい国の第1位が日本という報道もあったが、本県に対する世界の興味をどのように分析されているか。

○加藤観光誘客推進課観光誘客企画監

岐阜県の観光の魅力は、観光用に造られたものではなく、豊かな自然のもと、先人から受け継がれてきた伝統、文化、匠の技が長い時を越えて暮らしの中に息づいているということにあり、そこが評価され、欧米を中心に人気を得てきた。

現在、デジタルマーケティングの手法を用いて市場ごとの興味関心を分析しており、その結果に基づいた誘客プロモーションを展開していきたい。

○小川祐輝委員

分析されるデータは過去のものか、それともコロナ禍のデータか。

○加藤観光誘客推進課観光誘客企画監

昨年4月にリニューアルした新しい海外向けのW e bサイトからのデータであり、コロナ禍で集めたデータである。

○小川祐輝委員

ここ2年間、中山道のウォーキングイベント等が全く開催できておらず、地元のモチベーションが下がっている。コロナが落ち着いたらまた誘客に繋がるようなイベントもやっていただきたい。

○伊藤秀光委員

インフルエンサーの活用は、どのような状況か。

○加藤観光誘客推進課観光誘客企画監

昨年度、海外向けのW e bサイトをリニューアルしたところ、イタリア語版W e bサイトの当初の月間閲覧者数は300から400であったが、イタリアの人気D Jと連携したプロモーション事業により、1万人ほどとなった。今後もこのようなインフルエンサーを活用したP Rを進めていきたい。

○小川祐輝委員

県が集めた貴重なデータは市町村や観光協会に共有されているか。

○加藤観光誘客推進課観光誘客企画監

今年度後半からグーグルマップを活用し、市町村ごと、業種ごとに分析したデータを市町村等に提供する。また、県内観光事業者等向けにデジタルマーケティングスキル向上のための研修を実施し、全体のレベルアップを図るとともに官民連携によるプロモーションを展開していきたい。

○平野祐也委員

本県で最もメジャーな農産物は何と考えているか。

○高木農産物流通課長

三位一体で食をPRする中で、飛騨牛、アユ、柿を3大品目として推奨している。

○平野祐也委員

県として推したいものでなく、日本国民に聞いた岐阜県の特産品といえば何と考えているか。

○高木農産物流通課長

データで示すことはできないが、我々が聞いている一般的な認識だと、アユ、柿である。

○平野祐也委員

農産物に限ったことでなく、県として売り出したいブランドのみならず、一般に認識されているブランドを分析し、連携させるべきではないか。

○渡部観光企画課長

観光の観点では、白川郷、長良川の鶉飼、飛騨高山等、既にブランドとして認識されているものに加え、まだ十分に知られていない観光資源についても特色を出し、イメージアップにつなげることが重要と考えている。

○金武観光資源活用課長

戦国武将観光については、関ヶ原の持つブランド価値、知名度を活用し、県内各地の史跡を売り込んでいくことで魅力を全国に向け発信し、誘客を図っている。商品については、「飛騨・美濃すぐれもの」として現在84点を認定している。観光客に地域の中で大切に育て作り上げられた魅力的な商品を紹介し、さらにそれを東京の流通にも乗せていくという展望を持って、ブランド戦略を行っている。

○浦崎県産品流通支援課長

伝統工芸品については、東京の百貨店で美濃和紙というカテゴリーで売られている事例があるほか、東京オリンピック・パラリンピックにおいて美濃手すき和紙が表彰状に採用され、世界に発信されたことは大きいと考えている。

その他の地場産業製品も含め、現在東京で設置しているポップアップストアでの売れ行きや評判を見ながら、岐阜として何を打ち出せるかをしっかりと検討していきたい。

○桑田里川振興課水産振興室長

全国の鮎の味を競う「清流めぐり利き鮎会」において、岐阜県の鮎は過去にグランプリを6回、準グランプリを25回獲得しており、全国的に名産地として知られていると考えている。

○平野祐也委員

客観的な岐阜県のブランド価値について広くアンケートをとった方がいいのでは。

○加藤観光誘客推進課観光誘客企画監

今年度リニューアルする国内向けのWebサイトでは、アンケートをとることができるため、その機能を活用して、意識調査をしっかりとやっていきたい。

○平野祐也委員

まさにこれから観光が回復するタイミングであるのでよろしくお願ひしたい。

○布俣正也委員

サステイナブル・ツーリズムに関する日本政府観光局のWEBサイトで、本県が高く評価されている。今後、サステイナブル・ツーリズムを本県独自の取組みとする政策は。

○渡部観光企画課長

今後、県として国連世界観光機関（UNWTO）が主催する持続可能な観光地づくりの活動を行うネットワークへの加盟を目指し、地域の関係者と連携しながら取組みを進めていく。

○加藤観光誘客推進課観光誘客企画監

この3年間で、自然、伝統・文化、匠の技といった岐阜県の強みであるサステイナブル・ツーリズムの理念に沿った着地型体験ツアーを海外で50本以上、国内で100本以上造成してきた。また、サステイナブルな岐阜県の魅力を伝えることができるよう観光ガイドの育成を行う等、民間事業者と連携し推進している。

○金武観光資源活用課長

県と4市で設立した長良川流域観光推進協議会において観光誘客を図っている。例えばクーポンを発行し、利用可能な店舗、体験コンテンツを順次増やす等の取組みを行っている。より多くの方を巻き込みながら、長く流域で文化や自然、伝統工芸、食等を守ってきた方々の価値を認め、事業に組み込む形で人材育成、持続可能性を担保していきたいと考えている。

○池戸観光誘客推進課長

国内向けには、県観光連盟が「VISIT岐阜県」という体験予約サイトでサステイナブル・ツーリズムに資する着地型体験ツアーを今年度は約30本造成して販売する予定。今後もサステイナブル・ツーリズムを全面に押し出し、観光客の長期滞在、観光消費を促していく。

○布俣正也委員

既存の資源を大いに活用し、オンリーワンとなる魅力向上に取り組んでいただきたい。

○玉田和浩委員長

質疑も尽きたので、説明聴取を終了する。

これをもって、本日の委員会を終了する。

魅力度向上対策特別委員会 配席図

令和3年10月6日(水)午前10時～
企画経済委員会室

出入口

出入口

出入口

観光誘客推進課 加藤 英彦		観光資源活用 推進室長 吉村 竜一		農村振興課管理調 整監 副島 洋子		農政課 農業研究企画監 石垣 要吾		里川振興課 桑田 知宣
恵みの森づくり推 進課 古沢 弘康		観光誘客推進課長 池戸 克成		観光資源活用課長 金武 雅人		都市公園課 花フエスタ記念公 園企画推進室長 小池 貴久		里川振興課長 辻 博之
県産材流通課長兼 東京オリンピック 利用促進対策監 伊藤 修宏		文化伝承課長 河田 哲也		観光企画課長 渡部 達弥		県産品流通支援 課長 浦崎 宏幸		農産園芸課長 大橋 薫子
恵みの森づくり 長屋 秀樹		文化創造課長 青木 伸泰		観光国際局長 矢本 哲也		都市公園課長 清水 浩二		農産物流通課長 高木 賢二

傍聴席

議 会
事務局

小川(祐)員
平野(恭)員
伊藤(英)員
伊藤(秀)員

野 村
副委員長

玉 田
委員長

森(益)員
平野(祐)員
澄川員
布俣員
村下員